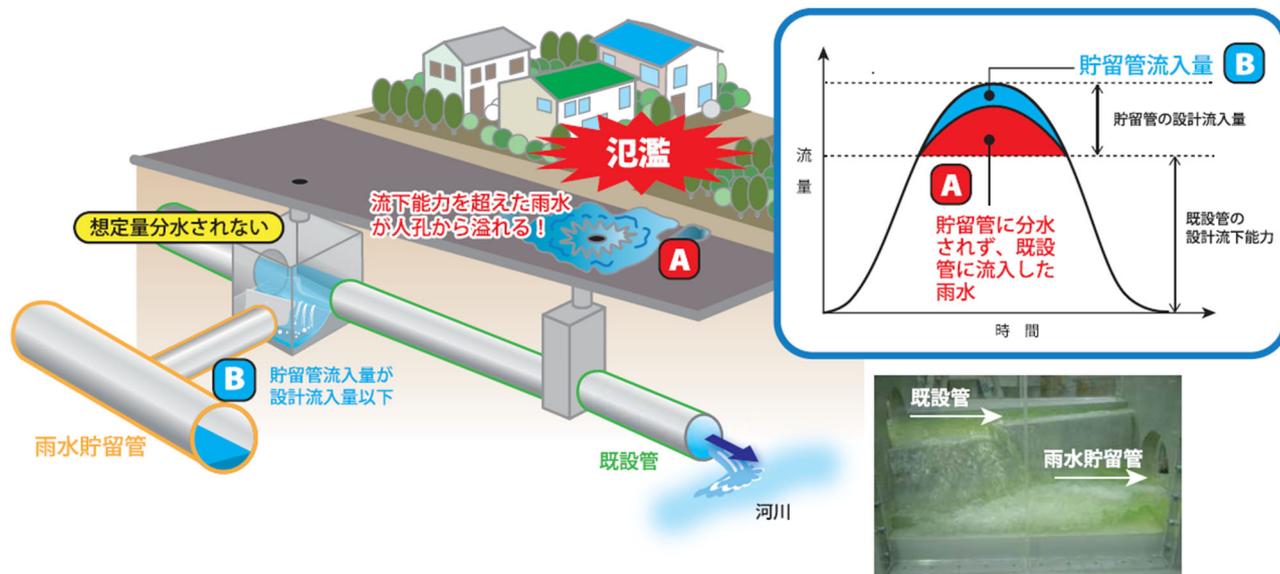


課題2：分水における課題

既存の雨水排除施設の流下能力を補完するために、既存施設能力を超える雨水を收容する幹線や貯留施設を新たに整備する際、いわゆるピークカットの分水施設を合わせて構築することになります。都市部においては、この分水施設を構築するための地下空間も限定されることから、水理計算上で必要な堰長を確保することがほとんどできません。

このため、その場の条件に応じた分水促進のための補助構造物が必要となりますが、狭い空間の複雑な三次元の流れを精度よく再現・評価するには、現状の解析技術では不十分なケースがあります。その結果、計画通りの分水特性（ピークカット）を得ることが困難であり、新たに整備した施設的能力が十分に発揮されず、浸水被害の解消・軽減が達成できない事象が現実に見られます。



水理模型実験施設の概要

日本工営は、民間コンサルタントとしては国や大学の研究機関に引けをとらない規模の中央研究所を有しています。水理模型実験分野では、屋内実験棟 4,200m²、屋外実験ヤード 7,000m² を誇る大型水理模型実験施設を有し、下水道のみならず河川、ダム、砂防施設、発電施設等の設計をサポートする試験・実験を行っています。

ここでは、先に上げた課題を解決するための対策施設を提案するため、幹線の全体を再現した大規模水理実験から、分水施設を中心とした範囲を再現した中小規模の水理模型実験まで、様々なニーズにこたえることができます。

浸水対策のためのハード施設の機能を最大限に発揮するための提案はここから生まれています。



関連実績

日本工営では最近 5 年間において 5 都市の下水道施設を対象とした水理模型実験業務として 15 件の実績を有しています。